

自分の思いや考えを豊かに表現する子どもを育てる

～「言語活動」を重視した道徳の時間の指導を通して～

1. 研究主題設定の理由

児童数 180 あまりの本校では、一人一人を生かし大切にすることを、学校運営のはしらの一つに据え、これまで取り組んできた。さらに、個々の子ども同士のかかわりをより深めるために、ピア・サポート活動を取り入れ、たてわり活動にも力を入れてきた。その結果、学校全体として「仲の良い学校」という意識がかなり育ってきている。しかし、個々の子どもを見ると、同学年では、少人数の弊害である「人間関係の固定化」が見られたり、「なかよし言葉」は普及しているものの相手を思いやる内面的な変容まで至ることが難しい場合があったりするものが現状である。

そこで、昨年度も、前年度に引き続き、「道徳」を取り上げ、子ども一人一人の内面に目を向け、研究主題を『自分の思いや考えを豊かに表現する子どもを育てる』とし、副題を『「言語活動」を重視した道徳の時間の指導を通して』とした。そして、自分を見つめ、生命の尊重に重点をおき、子どもの心に迫る指導のあり方を追求した。本年度も、昨年度のテーマを引き継ぎ研究を進めていくが、多様な話し合いの形式を取り入れ、意見を練り合う言語活動を意識し、子どもの心に迫る指導のあり方を追求するようにした。

2. 研究の視点

個々の児童を見つめ、児童の心が学習活動へ志向し、「言語活動」に重点をおいた授業を研究する。昨年の成果を生かし、全学年道徳で授業研究を行う。

- ・ 道徳の指導を通して、生命の尊重や、自己肯定感などの自尊感情、他者への思いやり、善悪の正しい判断、社会生活を送る上での規範意識などの道徳性を養うと共に、主体的に判断し適切に行動できる豊かな心をもった児童を育てる。
- ・ 望ましい集団の形成とその活動の充実を図ることにより、互いの違いを認め合い、信頼し合える人間関係を築けるようにする。
- ・ 話し合い活動を充実することにより、「聞く力」「話す力」「話し合う力」など豊かに表現する力を培い、自主的・実践的な態度を育てる。

というねらいをもって取り組むことにした。また、研究の視点を次のように設定した。

- | | |
|-----|---------|
| (1) | 資料提示の工夫 |
| (2) | 発問の工夫 |
| (3) | 表現活動の工夫 |
| (4) | 話し合いの工夫 |

3. 研究の内容

(1) 資料提示の工夫

- ・ 指導者による範読＜T 1. T 2による役割読み＞
- ・ 場面絵、ペープサート

(2) 発問の工夫

- ・ 導入の発問
- ・ 中心発問
- ・ 補助発問

(3) 表現活動の工夫

- ・ 役割演技
- ・ 動きやせりふの真似
- ・ 動きや表情で自分を表現

(4) 話し合いの工夫

- ・ ペア・グループによる話し合い
- ・ 心のものさし、心のメーター
- ・ 座席移動、名札の活用

4. 研究の成果と今後の課題

<研究の成果>

(1) 資料提示の工夫

範読（役割読み）・場面絵・ペープサート・CD ⇨ 資料の内容を理解する

(2) 発問の工夫

導入の発問 ⇨ 価値への方向付け

中心発問 ⇨ ねらいに迫る発言

補助発問 ⇨ 児童の発言を広げる・本時のねらいを意識する

(3) 表現活動の工夫

役割演技 ⇨ 登場人物の気持ちを表現する

(4) 話し合いの工夫

ペア・グループ、フリートーク ⇨ 友達と意見を伝えることで、
自分の思いや考えをより深める

『心のものさし』、『心のメーター』⇨自分の考えを明らかにする
話し合いに有効

黒板の前で意見交流、名札の活用 ⇨ 自分の考えを明確にした話し合い

<今後の課題>

- 学習のねらいに迫る補助発問
- 話し合い活動時の助言の工夫
- 言語活動を意識した指導のつみあげ